

セントポール・クリスマス家族会報告

星野 紘 紀

12月10日(水)水津会長のお供をしてセントポールライオンズ・クラブのクリスマス家族例会に出席して参りました。五大学全クラブが出席と云う和やかな例会でした。

キリスト教系の大学らしく例会に先立ちホテルのチャペルで「礼拝」が行われ、私も参列させて頂きました。礼拝次第は下記の通り。

- 1、クリスマス・メッセージ
- 2、聖歌20番
- 3、ルカによる福音書「羊飼いと天使」
- 4、聖歌 2番

オルガンの演奏につれて司祭により礼拝は進行するのですが、何となく心洗われる思いのするものです。

引き続き席を宴会場に移して、六テーブル、来賓・家族を含めて40名ほどの例会でした。

セントポールも当クラブと同様に留学生に対するアクティビティーがメインで留学生を招待してのバス・ハイク、奨学金そして日本語スピーチ・コンテストを行っており、この日も韓国籍、中国籍の女性に対して奨学金が、また、オランダ籍の男性に対してスピーチ・コンテスト優秀賞が各々授与されました。

クリスマス懇親会は、ブッフエ・スタイルでバイオリンとピアノのポピュラー・デュオで宴会を楽しく盛り上げ、和気藹々のラッキー・カード抽選会、そして立教大学校歌で閉会となりました。

因みに、水津会長はお孫さんのお土産となるヘリコプターの模型、私は玄関ドアに飾るクリスマス・リースが当たりました。

会の運営ではラッキー・カードの抽選方法は参考になり、また、五大学全クラブが出席していたことが特色でした。

次年度は若い白門メンバーの皆さんが積極的に参加され、五大学の交流を深められることをお奨め致します。

以 上

昭和46年文学部卒の竹村悦子です。今日はいらしていませんが、L小平さんとは高校からの友人です。今までスピーチをされた皆様とは違い何のとりえもない私が入前で何を話せば良いかずっと悩んでいましたが、私が過ごしてきた道のりの中で家族、そして自分の事を人様の前で語ることはほとんどありませんでしたので、今日は思い切って述べてみたいと思います。

私の父は長野市の出身で、今でいう日比谷高校から東大を出、何故か大学の教師という職に就きました。でも、大学時代はラグビーに明け暮れ1年留年したと聞いています。その父にどうして教師にしかも仏文の教師になったのか聞いた事があり、その時の回答がフランス語が好きで教わった先生が好人物だったからとあっけない事だったのを覚えています。祖父は東大卒業後第一銀行に勤め事業を行なう為に退職、戦後の混乱期に引退し四万温泉の向見薬師堂そばで旅館を経営し昭和26年9月に亡くなっています。

祖母は旅館の女将として頑張ったが亡くなってから旅館は人手に渡り現在は跡形もない状態です。

父はとても紳士でいつもベレー帽をかぶり大変おしゃれでしたが、お酒を飲むと虎になっていました。中大へは私の入学2年後昭和44年からで70歳で退職しましたがいつの間にか名誉教授になっていたのにはびっくりした記憶があります。父は72歳の時肺がんで亡くなりました。

母は九州小倉に生まれ、現在の小倉西高・女子美術大学に進みました。当時、一人で上京下宿をしながら大学に通うという事は大変なことだったようですが祖父が美術の教師であったこと、そして祖母が俳人「杉田久女」として世間に名を知られ、女子でも勉強をなささいという両親の思いだったと思っっています。

祖母の俳句で有名なのが、田辺聖子さんが“わが愛の杉田久女”という本の題名になった福岡県英彦山の句「花衣ぬぐやまつわる紐いろいろ」「餅（こだま）して山ほととぎすほしいまま」です。

私もたまに俳句をなんて作ってみるのですが小学生の句で人前には出せません。

母は厳格で曲がった事の嫌いな人でしたが、他人様への心配り、優しさは誰にも負けなかったと思います。

病で倒れる迄約30年彫金に打ち込んでいました。今日私がしているペンダントも母が作ったものです。

兄は父の仕事の関係で台湾で生まれ膳本を見ると台湾国となっています。1才を過ぎ終戦後引き揚げてきたそうです。明大卒業後、プリンスホテルに入社しホテルマンとして過ごしていたせいか、私の逞しいがさつな性格と大違いで繊細でダンディ、そして品があると従兄の誰もが言う位評判の高い兄ですが、2年前母が亡くなって四十九日の法要後、心臓病と脳梗塞の夜に倒れ、この12月介護付有料ホームへ入居したところです。

私はこんな家族の中、父が東北大の教師になった為、兄と5才離れて仙台市の仙台刑務所のそばの借家で昭和24年1月24日に生まれました。小学1年終了後、父が埼玉大学に

呼ばれた事で蒸気機関車の乗り8時間かけて上京、平々凡々と高校迄進みました。
高校2年が終る頃に私は勉強が好きでもなし、就職したいと両親に伝えたところ、父が女子でも大学に行って見聞を広めるのは大切な事だと言ってくれ進学を選びましたが、それなら大学を出て教師になろうと心に決め教職課程をとり成績もすべて“優”でした。
いよいよ教師への試験と思った矢先、母の強烈な反対にあいました。理由は学校を出て教師になれば22歳。教える子の親はその年上なんだから貴女みたいに生意気で理屈やは更に生意気になるからとのことでした。諦め切れなかったのですが、父にお母さんの言うことを聞いてやりなさいと諭され、当時の日本勧業銀行に大卒女子で始めて入行しました。
その後、金融一筋で約30年仕事は誰にも負けない位こなしてきて、それなりの職位まで就きましたが55歳で一旦退転その後10年間は金融業務から離れ、経理、総務の仕事をしてきましたが、再び第一勧信からお声があり9月から復職、フルタイムでパートのおばさんしています。
こんな私が長い間仕事出来るのは多くの人に接したことと、良い人達に恵まれた事と有難く思っています。
皆様から受けた恩を忘れず、常に相手を思いやる心を持って感情豊かに人生を活性化させながら歩いて生きたいと思っております。
長々とつたない話でしたがありがとうございました。

水津会長の叙勲のお祝い

し 鈴 木 誠

12月17日の例会で水津正臣会長の旭日小授章の祝賀会が行なわれました。水津会長は、すでに会員の皆様ご存知のとおり、自衛隊から中央大学法学部に進学し、卒業後は都庁に勤務しながら司法試験を受験し、卒業3年目で見事合格した秀才且つ努力家です。

弁護士登録後は弁護士会の会務として、東京弁護士会副会長、日弁連常務理事等を歴任した外、東京弁護士会の最大派閥の幹事長を務めるなどの活躍をされています。一方、本業の法律家としての仕事も充実していて多くの若手弁護士を擁する法律事務所を経営し、倒産処理や債権管理の専門書を刊行する外、毎日新聞、日本経済新聞等の法問答、法律講座も担当されていました。

長年にわたる上記のような経歴、実績が国によって認められ、平成26年度の秋の叙勲として日本国天皇より旭日小授章を授与されたものです。我々東京白門ライオンズクラブにとって非常に名誉なことであり、心よりお祝い申し上げます。